

姉妹のかぶり物と
神の栄光

ピーター・ウイー

Woman's Head Covering
& The Glory of God

Peter H. L. Wee

姉妹のかぶり物と神の栄光

ピーター・ウイー著

WOMAN'S HEAD COVERING—
AND THE GLORY OF GOD

Peter Wee Huat Leong

BETHESDA BOOK CENTRE

Publisher

EVANGELICAL PUBLISHERS

Tokyo, Japan

目次

I 序	5
A 実践しない理由	7
B かぶり物への賛同	11
II コリント人への手紙第一の新たな考察	15
A 語義——「栄光 (glory)」と「栄光を帰する (to glorify)」	16
B 不品行と悪習——そして「神の栄光」	17
III 「神の栄光」と「人間の栄光」	22
A 「かしら」の問題	24
(1) 語義——「男」と「女」	25
(2) 従属に関する疑問	26
B 象徴	29
(1) かぶり物をしない男の頭	29

	(2) かぶり物をした女の頭	31
C	かぶり物の目的	33
	(1) 栄光の表現	33
	(2) かぶり物をしない男の頭が「神の栄光」を反映する	36
	(3) かぶり物をした女の頭が人類の「墮落後の栄光」を反映する	37
D	理由——なぜ男は「神の栄光」を、女は「男(人間)の栄光」を反映するのか	39
E	男女の相互依存——「創造」と「出産」	41
F	実践の重要性	42
G	女の個人的な栄光	46
H	確立された習慣	47
IV	実践的考慮	49
A	女性の役割	49
B	男性の役割	53
C	長老の役割	54
V	結論	56

2 さて、あなたがたは、何かにつけて私を覚え、また、私があなたがたに伝えたものを、伝えられたとおりに堅く守っているのです、私はあなたがたをほめたいと思います。

3 しかし、あなたがたに次のことを知っていただきたいのです。すべての男のかしらはキリストであり、女のかしらは男であり、キリストのかしらは神です。

4 男が、祈りや預言をするとき、頭にかぶり物を着けていたら、自分の頭をはずかしめることになりません。

5 しかし、女が、祈りや預言をするとき、頭にかぶり物を着けていなければ、自分の頭をはずかしめることになりません。それは髪をそっているのと全く同じことだからです。

6 女がかぶり物を着けないのなら、髪も切ってしまうなさい。髪を切り、頭をそることが女として恥ずかしいことなら、かぶり物を着けなさい。

7 男はかぶり物を着けるべきではありません。男は神の似姿であり、神の栄光の現われだからです。女は男の栄光の現われです。

8 なぜなら、男は女をもとにして造られたのではなくて、女が男をもとにして造られたのであり、

- 9 また、男は女のために造られたのではなく、女が男のために造られたのだからです。
- 10 ですから、女は頭に権威のしるしをかぶるべきです。それも御使いたちのためにです。
- 11 とはいえ、主にあつては、女は男を離れてあるものではなく、男も女を離れてあるものではありません。
- 12 女が男をもとにして造られたように、同様に、男も女によって生まれるのだからです。しかし、すべては神から発しています。
- 13 あなたがたは自分自身で判断しなさい。女が頭に何もかぶらないで神に祈るのは、ふさわしいことでしょうか。
- 14 自然自体が、あなたがたにこう教えていないでしょうか。男が長い髪をしていたら、それは男として恥ずかしいことであり、
- 15 女が長い髪をしていたら、それは女の光栄であるということです。なぜなら、髪はかぶり物として女に与えられているからです。
- 16 たとい、このことに異議を唱えたがる人がいても、私たちにはそのような習慣はないし、神の諸教会にもありません。

I 序

新約聖書の中に、(一部の信者たちによって)無視され、あるいは否定され、目を向ける価値がないものとして扱われてきた箇所があります。「騒ぎになるような論争が起こっては困るから」というのが、その理由の一つでしょう。また、「この箇所の教えは、もはや、今日の信者の信仰生活には関係がない」というのも、その理由の一つでしょう。女性たちは、その教えが男性に対する「服従」と「下位」を表すものとして、その命令を拒否するかもしれません。長老を始め、指導者の中には、この問題を率直に話し合うことを避け、その教えが存在しないかのように、この箇所を取り扱っている人もいます。それどころか、この教えが正当かつ妥当なものなのかどうか、その根拠や効力に疑問を抱いている人すらいるのです。しかし、この箇所の教えは、聖書全体の中で不可欠なものであり、神の民の集まりにおいては重要な意味を持っています。そのために、聖霊により靈感を受けて、パウロがこの箇所を書き記したのです。

私が言っているのは、コリント人への手紙第一の十一章二―一六節のことです。私たちは、「聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。それは、神の

人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです」(Ⅱテモテ三・16、17)というみことばを信じているのですから、この箇所を、祈りをもって注意深く学び、一つの結論に達するべきでしょう。すなわち、「主の命令に従う」のか、それとも「主の命令に従わない」のかということですか。あなたはこの命令を、パウロの「男性優越主義」を示す不当な要求の一例とみなして拒否しますか。あるいは、この命令を、からだなる教会の初期の信者だけに限られた時代遅れの慣習——パウロが生きた時代、活動した範囲だけに限られたものであり、科学技術が進歩した現代では不要なもの——とみなして無視しますか。

姉妹は礼拝の時間や祈り会、伝道集会などの際に、頭にかぶり物をすることによって、この命令に従うべきであり、逆に、兄弟はかぶり物をしないことによって、この命令に従うべきだと、非常に多くの集会(assembly)で信じられています。しかしながら、そう信じている信者たちも、「聖書にそう書いてあるから」という理由だけでその命令を実践している人が多いようで、その本当の理由は十分に理解されていないようです。

A 実践しない理由

しかしながら、諸集会の中にも、姉妹たちがかぶり物をすることを奨励しない集会があり、時には、暗に、しないように勧める集会さえあります。この場合、次のような理由が前提となっているようです。おもな反論を六つに分類して、その内容を検討してみましょう。

反論1 「かぶり物は昔の習慣にすぎない」。

この反論は、かぶり物に関する教えを、パウロの時代のコリント集会の姉妹たちにも当てはまるものと考えられるものです。「いかかわしい女たち、つまり、売春婦たちが何もかぶり物をしないで歩き回っていたのに対し、品行方正な女性がかぶり物をして頭や顔を覆っていたことは明らかにされています。従って、社会的慣習を礼儀正しく守り、未信者たちの感情を損なわないために、クリスチャン女性、礼拝や祈りのための集会でかぶり物をしなければならなかったのだ。従って、かぶり物に関する神の命令は、そのような慣習がすたれた現代のクリスチャン女性には適用されない」。

しかし、どんなに探しても、コリント人への手紙のこの箇所には、そのような理由を裏付けけるもの